

少人数指導モデル校を活用した  
少人数指導の効果的なあり方について

平成 29 年 3 月  
熊本市教育委員会

# 目 次

|  |    |
|--|----|
| 少人数指導モデル校について                              | 1  |
| 少人数指導モデル校の検証                               | 2  |
| 平成 26 年度及び平成 27 年度の少人数指導モデル校の検証及び分析        |    |
| 1 N R T ( 全国標準学力検査 ) 算数 ( 数学 ) ・ 国語の状況     | 3  |
| ( 1 ) 学力偏差値の比較                             |    |
| ( 2 ) 標準偏差の比較                              |    |
| 2 評価 ( 単元 ) テストの状況                         | 7  |
| ( 1 ) 平成 26 年度の状況                          |    |
| ( 2 ) 平成 27 年度の状況                          |    |
| 3 アンケート結果の状況                               | 7  |
| ( 1 ) 平成 26 年度の状況                          |    |
| ( 2 ) 平成 27 年度の状況                          |    |
| 4 全国学力・学習状況調査 算数 ( 数学 ) ・ 国語の状況            | 9  |
| ( 1 ) 本市平均正答率との差                           |    |
| ( 2 ) 本市平均標準偏差との差                          |    |
| < 児童生徒質問紙 ( 算数・数学関連 ) の回答結果 >              |    |
| 5 熊本県版テストの状況 ( 中学校のみ 1 月に実施 )              | 13 |
| ( 1 ) 本市平均点との差 ( 平成 25 年度と平成 26 年度の数学を比較 ) |    |
| ( 2 ) 本市平均点との差 ( 平成 26 年度と平成 27 年度の数学を比較 ) |    |
| 総括   | 13 |

## 少人数指導モデル校について

### 1 目的

小学校、中学校で少人数指導のモデル校を指定し、指導方法工夫改善加配の教員を活用した少人数指導法の実践研究を学力向上の観点から検証する。

### 2 研究体制

熊本市教育振興基本計画第2期実施計画アクションプログラムの学力向上実践研究として位置づける。

教育委員会事務局（教育センター、指導課、教職員課、教育政策課）によるサポート

### 3 対象者及び研究教科

小学校は5年生、中学校は2年生

研究教科：算数・数学

### 4 選定基準

指導方法工夫改善加配を小学校5年算数または中学校2年数学で希望している学校

当該学年が3学級以上の学校

当該学年が1学級36人以上の学校

小学校4年生算数、中学校1年生数学のNRTの結果が概ね本市平均以下の学校

### 5 モデル校

平成26年度 小学校3校、中学校2校

平成27年度 小学校3校、中学校2校

### 6 研究の柱

平成26年度 学習課題別学習の効果的なあり方

時間・空間・仲間の効果的な生かし方

平成27年度 必要感のある学習課題設定の工夫

子どもの実態に合わせた学習課題を解決する手立ての工夫

### 7 担当者

小学校：5年生の担任のうち1名と少人数担当者1名の計2名

中学校：2年生の数学担当教諭のうち1名と少人数担当者1名の計2名

### 8 研究成果の公開

モデル校では、研究発表会は行わず、公開授業及び授業研究会のみとする。公開授業は、年1回以上実施する。

## 少人数指導モデル校の検証

学力向上の観点から少人数指導の効果的なあり方や指導法等について検証し、全小中学校での共有化を図るとともに、平成29年度以降の県費負担教職員給与費等の権限移譲に伴う指導方法工夫改善加配教員の効果的な活用や配置のあり方について検討する。

### 1 関係課

- 教育政策課
- 教育センター
- 指導課
- 教職員課

### 2 比較検証校

- (ア) モデル校
- (イ) N R Tの検査結果が同程度、当該学年・教科で指導方法工夫改善加配のある、同規模である、モデル校以外の学校（以下、「加配のある学校」という）の同学年児童・生徒。  
小学校3校、中学校2校。
- (ウ) N R Tの検査結果が同程度、当該学年・教科で指導方法工夫改善加配がない、同規模である、モデル校以外の学校（以下、「加配のない学校」という）の同学年児童・生徒。  
小学校3校、中学校2校。

### 3 効果検証に用いるデータ

- (1) N R T（全国標準学力検査）算数（数学）・国語 1
- ・(ア)の学力偏差値について、モデル校指定年度と翌年度の数値を比較・分析
  - ・(ア)～(ウ)の学力偏差値について、モデル校指定年度と翌年度の数値の伸び等をそれぞれ比較・分析
  - ・(ア)～(ウ)の標準偏差 2について、モデル校指定年度と翌年度の数値をそれぞれ比較・分析
- 1 少人数指導を実施することで、教科を問わない学習意欲の向上やグループ学習、話し合い活動による言語活動の充実などへの影響を調べるため、国語の結果の比較・分析も行う。
- 2 データの散らばり具合を示す指標である。値が大きければデータの散らばり具合が大きく集団内の学力差が大きくなる。値が小さければデータの平均前後にデータが集中しており、集団内の学力差が小さいことになる。
- (2) 評価（単元）テスト
- ・(ア)～(ウ)のテスト結果（公開授業の領域等）を比較・分析
- (3) 少人数指導に関するアンケート
- 内容：行動変容等
- 実施時期：5月（モデル校以外は9月）、翌年2月
- 対象者：モデル校の対象学年の児童・生徒、モデル校以外の同学年の児童・生徒
- (4) 全国学力・学習状況調査 算数（数学）・国語
- ・(ア)～(ウ)の平均正答率について、モデル校指定の翌年度における結果を比較・分析
  - ・(ア)～(ウ)の標準偏差について、モデル校指定年度の翌年度における結果を比較・分析

少人数指導を実施することで、教科を問わない学習意欲の向上やグループ学習、話し合い活動による言語活動の充実などへの影響を調べるため、国語の結果の比較・分析も行う。

- ・モデル校指定の翌年度における（ア）～（ウ）の児童生徒質問紙（算数・数学関連）の回答結果を比較・分析

平成28年度は熊本地震の影響のため、4月19日の調査実施を見送り、後日実施した。

(5) 熊本県版テスト（中学校で毎年1月に実施）数学

- ・（ア）～（ウ）のうち、モデル校指定年度と前年度のデータが確認できる学校の平均点について、結果を比較・分析

## 平成26年度及び平成27年度の少人数指導モデル校の検証及び分析

### モデル校 結果概要

- 10校中7校（小学校5校、中学校2校）でNRT算数（数学）の学力偏差値が上昇した。
- 7校中6校（小学校2校、中学校4校）でNRT国語の学力偏差値が上昇した。（小学校3校は未実施）
- 7校中3校（小学校2校、中学校1校）でNRT算数の標準偏差の値が前年度より小さくなった。（小学校3校（平成27年度モデル校）のデータはなし）
- 7校中4校（小学校3校、中学校1校）でNRT国語の標準偏差の値が前年度より小さくなった。（小学校3校は未実施）
- 10校中8校（小学校6校、中学校2校）で公開授業を行った領域等での評価テストの正答率に高い傾向が見られた。
- 10校中8校（小学校5校、中学校3校）で公開授業を行った領域等での評価テストの無答率に低い傾向が見られた。
- 10校中4校（小学校4校、中学校0校）で少人数指導に関するアンケートにおいて、学習意欲の向上やグループ学習の活用など、プラスの行動変容が見られた。
- 10校中3校（小学校2校、中学校1校）で全国学力・学習状況調査の算数A（数学A）の平均正答率が、本市平均正答率より高かった。
- 10校中1校（小学校1校、中学校0校）で全国学力・学習状況調査の算数B（数学B）の平均正答率が、本市平均正答率より高かった。
- 10校中8校（小学校5校、中学校3校）で全国学力・学習状況調査の算数・数学に関する質問紙の項目では本市平均の割合を上回る傾向にあった。

## 1 NRT（全国標準学力検査）算数（数学）・国語の状況

### (1) 学力偏差値の比較

小学校（平成26年度モデル校（平成26年度と平成27年度の学力偏差値を比較））

- ・モデル校及び加配のある学校では、本市平均に比べ、算数の学力偏差値が上昇した。加配のない学校では、算数の学力偏差値が下降した。
- ・モデル校及び本市平均においては、国語の学力偏差値に変化はなく、加配のある学校では上昇し、加配のない学校では下降した。

(算数)

| 検証校/学力偏差値 | H26  | H27  | 増減  |
|-----------|------|------|-----|
| モデル校(クラス) | 50.5 | 51.8 | 1.3 |
| モデル校(学年)  | 50.4 | 51.6 | 1.2 |
| 加配のある学校   | 50.2 | 51.7 | 1.5 |
| 加配のない学校   | 52.6 | 50.7 | 1.9 |
| 本市平均      | 51.8 | 51.9 | 0.1 |

(国語)

| 検証校/学力偏差値 | H26  | H27  | 増減  |
|-----------|------|------|-----|
| モデル校(学年)  | 50.6 | 50.6 | 0.0 |
| 加配のある学校   | 51.2 | 51.6 | 0.4 |
| 加配のない学校   | 53.3 | 52.1 | 1.2 |
| 本市平均      | 51.9 | 51.9 | 0.0 |

小学校(平成27年度モデル校(平成27年度と平成28年度の学力偏差値を比較))

小学校は、平成28年度からNRTを実施していない。新学力テストに移行する。検証に用いるためにモデル校のみ算数のNRTを実施した。

- ・モデル校(クラス)において、3校中2校は上昇(1.6、0.7)したものの、1校は下降(2.5)したため、モデル校全体としては、下降した。
- ・モデル校(学年)においては、3校中2校は上昇(1.0、0.3)したものの、1校は下降(1.0)した。
- ・いずれの学校も熊本地震後に実施したが、熊本地震後の学校再開直後に実施した学校については、下降した。

(算数)

| 検証校/学力偏差値 | H27  | H28  | 増減  |
|-----------|------|------|-----|
| モデル校(クラス) | 51.6 | 51.5 | 0.1 |
| モデル校(学年)  | 50.4 | 50.5 | 0.1 |

中学校(平成26年度モデル校(平成26年度と平成27年度の学力偏差値を比較))

- ・モデル校では、加配のある学校、加配のない学校及び本市平均に比べ、数学の学力偏差値の上昇幅が大きかった。
- ・モデル校、加配のある学校及び本市平均は国語の学力偏差値が上昇し、加配のない学校では変化がなかった。

(数学)

| 検証校/学力偏差値 | H26  | H27  | 増減  |
|-----------|------|------|-----|
| モデル校(クラス) | 48.1 | 51.2 | 3.1 |
| モデル校(学年)  | 48.8 | 51.4 | 2.7 |
| 加配のある学校   | 49.5 | 49.7 | 0.1 |
| 加配のない学校   | 50.1 | 50.4 | 0.3 |
| 本市平均      | 52.0 | 52.3 | 0.3 |

(国語)

| 検証校/学力偏差値 | H26  | H27  | 増減  |
|-----------|------|------|-----|
| モデル校(学年)  | 50.0 | 50.8 | 0.8 |
| 加配のある学校   | 52.1 | 52.9 | 0.8 |
| 加配のない学校   | 51.4 | 51.4 | 0.0 |
| 本市平均      | 51.9 | 52.8 | 0.9 |

中学校(平成27年度モデル校(平成27年度と平成28年度の学力偏差値を比較))

- ・モデル校及び加配のない学校では、本市平均に比べ、数学の学力偏差値が下降した。加配のある学校では、本市平均に比べ、数学の学力偏差値の上昇幅が大きかった。
- ・モデル校、加配のある学校では、本市平均に比べ、国語の学力偏差値の上昇幅が大きかった。

(数学)

| 検証校/学力偏差値 | H27  | H28  | 増減  |
|-----------|------|------|-----|
| モデル校(クラス) | 49.5 | 47.9 | 1.6 |
| モデル校(学年)  | 50.4 | 49.8 | 0.6 |
| 加配のある学校   | 51.8 | 53.1 | 1.3 |
| 加配のない学校   | 50.7 | 50.4 | 0.3 |
| 本市平均      | 52.2 | 52.2 | 0.0 |

(国語)

| 検証校/学力偏差値 | H27  | H28  | 増減  |
|-----------|------|------|-----|
| モデル校(学年)  | 50.5 | 51.5 | 1.0 |
| 加配のある学校   | 51.4 | 52.8 | 1.4 |
| 加配のない学校   | 51.2 | 51.8 | 0.6 |
| 本市平均      | 51.6 | 52.5 | 0.9 |

(2) 標準偏差の比較

小学校(平成26年度モデル校(平成26年度と平成27年度の標準偏差の差を比較))

(平成27年度モデル校の数値は不明)

- ・モデル校は、算数の標準偏差の差について、加配のある学校、加配のない学校及び本市平均に比べ、最も小さくなった。
- ・モデル校は、国語の標準偏差の差について、加配のある学校と加配のない学校より小さくなり、本市平均と同じであった。

(算数)

| 検証校/標準偏差 | H26  | H27 | 増減  |
|----------|------|-----|-----|
| モデル校(学年) | 10.9 | 8.7 | 2.2 |
| 加配のある学校  | 11.2 | 9.1 | 2.1 |
| 加配のない学校  | 9.8  | 9.2 | 0.6 |
| 本市平均     | 11.1 | 9.9 | 1.2 |

(国語)

| 検証校/標準偏差 | H26  | H27 | 増減  |
|----------|------|-----|-----|
| モデル校(学年) | 9.5  | 8.4 | 1.1 |
| 加配のある学校  | 9.7  | 8.7 | 1.0 |
| 加配のない学校  | 9.2  | 8.4 | 0.8 |
| 本市平均     | 10.3 | 9.2 | 1.1 |

中学校(平成26年度モデル校(平成26年度と平成27年度の標準偏差の差を比較))

(複数業者による算定のため、本市平均は不明)

- ・モデル校では、数学の標準偏差の差について、加配のある学校より小さくなり、加配のない学校より大きくなった。
- ・モデル校では、国語の標準偏差の差について、加配のある学校と同じとなり、加配のない学校より大きくなった。

(数学)

| 検証校/標準偏差 | H26  | H27  | 増減  |
|----------|------|------|-----|
| モデル校(学年) | 9.4  | 9.8  | 0.4 |
| 加配のある学校  | 9.6  | 10.2 | 0.6 |
| 加配のない学校  | 10.6 | 10.6 | 0.0 |

(国語)

| 検証校/標準偏差 | H26 | H27 | 増減  |
|----------|-----|-----|-----|
| モデル校(学年) | 8.4 | 8.6 | 0.2 |
| 加配のある学校  | 8.1 | 8.3 | 0.2 |
| 加配のない学校  | 8.8 | 8.3 | 0.5 |

中学校(平成27年度モデル校(平成27年度と平成28年度の標準偏差の差を比較))

(複数業者による算定のため、本市平均は不明)

- ・モデル校では、数学の標準偏差の差について、加配のある学校及び加配のない学校より小さくなった。
- ・モデル校では、国語の標準偏差の差について、加配のある学校より小さくなり、加配のない学校より大きくなった。

(数学)

| 検証校/標準偏差 | H27  | H28  | 増減  |
|----------|------|------|-----|
| モデル校(学年) | 9.6  | 9.5  | 0.1 |
| 加配のある学校  | 9.3  | 9.9  | 0.6 |
| 加配のない学校  | 10.1 | 10.2 | 0.1 |

(国語)

| 検証校/標準偏差 | H27 | H28 | 増減  |
|----------|-----|-----|-----|
| モデル校(学年) | 8.0 | 8.1 | 0.1 |
| 加配のある学校  | 7.9 | 8.1 | 0.2 |
| 加配のない学校  | 8.9 | 8.6 | 0.3 |



### 【分析】

- ・小学校において、熊本地震後の学校再開直後に実施した学校以外は、学力偏差値が上昇している。少人数指導により個別の指導がしやすくなり、丁寧な指導ができているからと考えられる。
- ・中学校において、平成27年度モデル校による学力偏差値の上昇は、平成26年度のように見られなかったが、加配のない学校より加配のある学校の学力偏差値が大きく上昇していることから、少人数指導の効果があることを示していると考えられる。
- ・国語に関しては、中学校は平成26、27年度の両方とも（小学校は平成26年度のみ検査実施）に、モデル校、加配のある学校ともに、加配のない学校よりも学力偏差値が上昇している。算数・数学における少人数指導において、発言回数が多くなったり、自分の言葉で考えを説明する言語活動の場面が多くなったりしたことが、国語の学力偏差値の上昇にも影響したと考えられる。

## 2 評価（単元）テストの状況

### （1）平成26年度の状況

モデル校、加配のある学校及び加配のない学校を比較した場合、小中学校ともにモデル校の正答率が最も高く、無答率が最も低かった。

### （2）平成27年度の状況

モデル校、加配のある学校及び加配のない学校を比較した場合、小学校のモデル校では、正答率が最も高く、無答率が最も低かった。中学校のモデル校では、無答率が最も低かった。

### 【分析】

- ・モデル校の正答率が最も高いのは、研究の柱に基づいた少人数指導を行うことで、単元毎の学習内容の習熟が図られたのが要因と考えられる。
- ・モデル校や加配のある小中学校の無答率が低いのは、「学習課題別学習の効果的なあり方」や「必要感のある学習課題のあり方」を柱として、子どもの実態に応じた学習課題や手立てを工夫することにより、子どもが学習課題にあきらめずに取り組むことができるようになったことの成果が数値に表れたと考えられる。

## 3 アンケート結果の状況

### （1）平成26年度の状況

- ・小学校においては、モデル校、加配のある学校及び加配のない学校を比較した場合、モデル校及び加配のない学校にプラスの行動変容が見られた。
- ・小学校のモデル校においては、「授業で発表している」「友達と話し合い、教え合いをしている」「友達の良いところに気づく」「動いたり、場所が色々使えたりして楽しい」「コースを選んだり、課題を選んだりする勉強が好きである」などの項目で特にプラスの行動変容が見られた。
- ・中学校においては、プラスの行動変容は見られなかった。

<行動変容（アンケートの1回目と2回目の数値の差）>

小学校

| 質問項目    | 授業で発表している | 友達と話し合い、教えあいをしている | 先生から教えてもらえる | 友だちの良いところに気づく | 先生にほめられる | 2人の先生に分かれる学習はわかりやすい | 2人の先生に分かれる学習は集中できる | 2人の先生に分かれる学習はしっかり自分で考えることができる | 動いたり、場所が色々使えたりして楽しい | コースを選んだり、課題を選んだりする勉強が好きである | 2人の先生に分かれる学習により、家庭での学習にも進んで取り組める | 行動変容 |
|---------|-----------|-------------------|-------------|---------------|----------|---------------------|--------------------|-------------------------------|---------------------|----------------------------|----------------------------------|------|
| モデル校    | 0.4       | 0.4               | 0.2         | 0.6           | 0.3      | 0.0                 | 0.0                | 0.2                           | 0.6                 | 0.4                        | 0.1                              | 0.29 |
| 加配のある学校 | 0.2       | 0.0               | 0.1         | 0.1           | 0.3      | 0.1                 | 0.1                | 0.0                           | 0.1                 | 0.1                        | 0.3                              | 0.12 |
| 加配のない学校 | 0.1       | 0.0               | 0.4         | 0.0           | 0.4      | -                   | -                  | -                             | -                   | -                          | -                                | 0.18 |

中学校

| 質問項目    | 授業で発表している | 友達と話し合い、教えあいをしている | 先生から教えてもらえる | 友だちの良いところに気づく | 先生にほめられる | 2人の先生に分かれる学習はわかりやすい | 2人の先生に分かれる学習は集中できる | 2人の先生に分かれる学習はしっかり自分で考えることができる | 動いたり、場所が色々使えたりして楽しい | コースを選んだり、課題を選んだりする勉強が好きである | 2人の先生に分かれる学習により、家庭での学習にも進んで取り組める | 行動変容 |
|---------|-----------|-------------------|-------------|---------------|----------|---------------------|--------------------|-------------------------------|---------------------|----------------------------|----------------------------------|------|
| 中学校モデル校 | 0.2       | 0.0               | 0.0         | 0.0           | 0.1      | 0.3                 | 0.2                | 0.2                           | 0.1                 | 0.2                        | 0.3                              | 0.13 |
| 加配のある学校 | 0.1       | 0.0               | 0.2         | 0.0           | 0.1      | 0.2                 | 0.2                | 0.2                           | 0.2                 | 0.1                        | 0.1                              | 0.06 |
| 加配のない学校 | 0.7       | 0.5               | 0.3         | 0.1           | 0.3      | -                   | -                  | -                             | -                   | -                          | -                                | 0.37 |

(2) 平成27年度の状況

- ・小学校においては、モデル校、加配のある学校及び加配のない学校を比較した場合、モデル校のみにプラスの行動変容が見られた。
- ・小学校のモデル校においては、「授業で発表している」項目で特にプラスの行動変容が見られた。
- ・中学校においては、モデル校、加配のある学校及び加配のない学校を比較した場合、加配のある学校のみにプラスの行動変容が見られた。

<行動変容（アンケートの1回目と2回目の数値の差）>

小学校

| 質問項目    | 授業で発表している | 友達と話し合い、教えあいをしている | 先生から教えてもらえる | 友だちの良いところに気づく | 先生にほめられる | 2人の先生に分かれる学習はわかりやすい | 2人の先生に分かれる学習は集中できる | 2人の先生に分かれる学習はしっかり自分で考えることができる | 動いたり、場所が色々使えたりして楽しい | コースを選んだり、課題を選んだりする勉強が好きである | 2人の先生に分かれる学習により、家庭での学習にも進んで取り組める | 行動変容 |
|---------|-----------|-------------------|-------------|---------------|----------|---------------------|--------------------|-------------------------------|---------------------|----------------------------|----------------------------------|------|
| モデル校    | 0.4       | 0.2               | 0.1         | 0.2           | 0.1      | 0.1                 | 0.1                | 0.1                           | 0.2                 | 0.1                        | 0.1                              | 0.10 |
| 加配のある学校 | 0.4       | 0.3               | 0.1         | 0.5           | 0.3      | 0.1                 | 0.4                | 0.3                           | 0.2                 | 0.4                        | 0.7                              | 0.34 |
| 加配のない学校 | 0.2       | 0.2               | 0.1         | 0.3           | 0.4      | -                   | -                  | -                             | -                   | -                          | -                                | 0.24 |

中学校

| 質問項目    | 授業で発表している | 友達と話し合い、教えあいをしている | 先生から教えてもらえる | 友だちの良いところに気づく | 先生にほめられる | 2人の先生に分かれる学習はわかりやすい | 2人の先生に分かれる学習は集中できる | 2人の先生に分かれる学習はしっかり自分で考えることができる | 動いたり、場所が色々使えたりして楽しい | コースを選んだり、課題を選んだりする勉強が好きである | 2人の先生に分かれる学習により、家庭での学習にも進んで取り組める | 行動変容 |
|---------|-----------|-------------------|-------------|---------------|----------|---------------------|--------------------|-------------------------------|---------------------|----------------------------|----------------------------------|------|
| 中学校モデル校 | 0.1       | 0.1               | 0.1         | 0.1           | 0.0      | 0.3                 | 0.2                | 0.4                           | 0.1                 | 0.1                        | 0.3                              | 0.11 |
| 加配のある学校 | 0.2       | 0.1               | 0.2         | 0.4           | 0.1      | 0.2                 | 0.2                | 0.0                           | 0.2                 | 0.2                        | 0.4                              | 0.13 |
| 加配のない学校 | 0.2       | 0.2               | 0.2         | 0.1           | 0.3      | -                   | -                  | -                             | -                   | -                          | -                                | 0.16 |

【分析】

- ・小学校のモデル校では、「授業で発表している」「友達と話し合い、教えあいをしている」「友達のよいところに気づく」「動いたり場所がいろいろ使えたりして楽しい」など、研究の柱と関連の深い項目で数値が上昇しており、少人数指導の良さを活用した授業をしていくことが、子どものプラスの行動変容につながると考えられる。
- ・中学校では、ほとんどの項目で全体的に数値が下降している中、モデル校や加配のある学校は、加配のない学校に比べて下降幅が小さい。授業の中で自分の考えを表現する機会が増えること、友達とのかかわりや、教師の個に応じた指導によって学ぶ機会が増えていることなどに効果が表れているので、継続することでさらに伸びが期待できる。

#### 4 全国学力・学習状況調査 算数（数学）・国語の状況

国語A、算数A、数学A（主として「知識」）

身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など

国語B、算数B、数学B（主として「活用」）

知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力など

##### (1) 本市平均正答率との差

小学校（平成26年度モデル校（平成27年度の結果））

- ・モデル校は、平均正答率について、加配のある学校及び加配のない学校に比べ、低かった。ただ学校別の結果では、モデル校の方が平均正答率の高い教科があった。

|          | 算数A | 算数B | 国語A | 国語B |
|----------|-----|-----|-----|-----|
| モデル校（学年） | 1.5 | 2.3 | 2.8 | 4.4 |
| 加配のある学校  | 0.7 | 0.2 | 1.0 | 1.8 |
| 加配のない学校  | 0.9 | 0.2 | 1.5 | 1.4 |

中学校（平成26年度モデル校（平成27年度の結果））

- ・モデル校は、平均正答率について、3教科で加配のある学校より低く、加配のない学校に比べて高かった。ただ学校別の結果では、モデル校の方が加配のある学校より平均正答率の高い教科があった。

|          | 数学A | 数学B | 国語A | 国語B |
|----------|-----|-----|-----|-----|
| モデル校（学年） | 2.9 | 2.3 | 3.7 | 1.2 |
| 加配のある学校  | 1.6 | 1.1 | 1.0 | 2.3 |
| 加配のない学校  | 3.6 | 4.7 | 1.9 | 2.3 |

小学校（平成27年度モデル校（平成28年度の結果））

- ・モデル校は、加配のある学校及び加配のない学校の平均正答率を比べたが、特段の傾向は見られない。ただ学校別の結果では、モデル校の方が平均正答率の高い教科があった。

|          | 算数A | 算数B | 国語A | 国語B |
|----------|-----|-----|-----|-----|
| モデル校（学年） | 0.3 | 2.1 | 0.9 | 4.6 |
| 加配のある学校  | 2.0 | 2.2 | 4.0 | 4.2 |
| 加配のない学校  | 1.8 | 0.7 | 0.1 | 1.1 |

中学校（平成27年度モデル校（平成28年度の結果））

- ・モデル校は、加配のある学校及び加配のない学校と比べて、平均正答率が最も低かった。

|          | 数学A | 数学B | 国語A | 国語B |
|----------|-----|-----|-----|-----|
| モデル校（学年） | 3.7 | 3.8 | 2.2 | 2.4 |
| 加配のある学校  | 3.3 | 2.8 | 0.5 | 2.6 |
| 加配のない学校  | 1.4 | 0.0 | 1.2 | 0.8 |

## (2) 本市平均標準偏差との差

小学校（平成 26 年度モデル校（平成 27 年度の結果））

- ・モデル校は、算数の標準偏差の差について、加配のある学校及び加配のない学校に比べ、大きかった。
- ・モデル校は、標準偏差の差について、国語 A では加配のある学校と加配のない学校と同じ、国語 B では加配のある学校と同じ、加配のない学校より大きかった。

|          | 算数 A | 算数 B | 国語 A | 国語 B |
|----------|------|------|------|------|
| モデル校（学年） | 0.2  | 0.0  | 0.0  | 0.1  |
| 加配のある学校  | 0.1  | 0.1  | 0.0  | 0.1  |
| 加配のない学校  | 0.0  | 0.1  | 0.0  | 0.2  |

中学校（平成 26 年度モデル校（平成 27 年度の結果））

- ・モデル校は、数学の標準偏差の差について、加配のある学校及び加配のない学校に比べ、小さかった。
- ・モデル校は、標準偏差の差について、国語 A では加配のある学校より大きく、加配のない学校と同じ、国語 B では加配のある学校と同じ、加配のない学校より小さかった。

|          | 数学 A | 数学 B | 国語 A | 国語 B |
|----------|------|------|------|------|
| モデル校（学年） | 0.1  | 0.1  | 0.2  | 0.1  |
| 加配のある学校  | 0.1  | 0.0  | 0.5  | 0.1  |
| 加配のない学校  | 0.2  | 0.0  | 0.2  | 0.1  |

小学校（平成 27 年度モデル校（平成 28 年度の結果））

- ・モデル校は、算数の標準偏差の差について、加配のある学校より大きく、加配のない学校より小さかった。
- ・モデル校は、標準偏差の差について、国語 A では加配のある学校と加配のない学校と比べて大きく、国語 B では加配のある学校と同じ、加配のない学校より小さかった。

|          | 算数 A | 算数 B | 国語 A | 国語 B |
|----------|------|------|------|------|
| モデル校（学年） | 0.0  | 0.1  | 0.1  | 0.1  |
| 加配のある学校  | 0.2  | 0.0  | 0.1  | 0.1  |
| 加配のない学校  | 0.1  | 0.2  | 0.0  | 0.0  |

中学校（平成 27 年度モデル校（平成 28 年度の結果））

- ・モデル校は、数学の標準偏差の差について、加配のある学校及び加配のない学校に比べ、小さかった。
- ・モデル校は、標準偏差の差について、国語 A では加配のある学校より大きく、加配のない学校と同じ、国語 B では加配のある学校と同じ、加配のない学校より小さかった。

|          | 数学 A | 数学 B | 国語 A | 国語 B |
|----------|------|------|------|------|
| モデル校（学年） | 0.6  | 0.3  | 0.1  | 0.0  |
| 加配のある学校  | 0.4  | 0.4  | 0.8  | 0.2  |
| 加配のない学校  | 0.1  | 0.1  | 0.7  | 0.1  |

<児童生徒質問紙（算数・数学関連）の回答結果>

小学校（平成 26 年度モデル校（平成 27 年度の結果））

- ・ 11 の質問項目中、本市平均を上回ったのは、モデル校では平均 5 項目、加配のある学校では平均 3 項目、加配のない学校では平均 4.3 項目であった。

中学校（平成 26 年度モデル校（平成 27 年度の結果））

- ・ 11 の質問項目中、本市平均を上回ったのは、モデル校では半数以上の平均 6.5 項目、加配のある学校では平均 4.5 項目、加配のない学校では平均 2 項目であった。

小学校（平成 27 年度モデル校（平成 28 年度の結果））

- ・ 11 の質問項目中、本市平均を上回ったのは、モデル校では平均 7.7 項目、加配のある学校では平均 3.3 項目、加配のない学校では平均 4 項目であった。

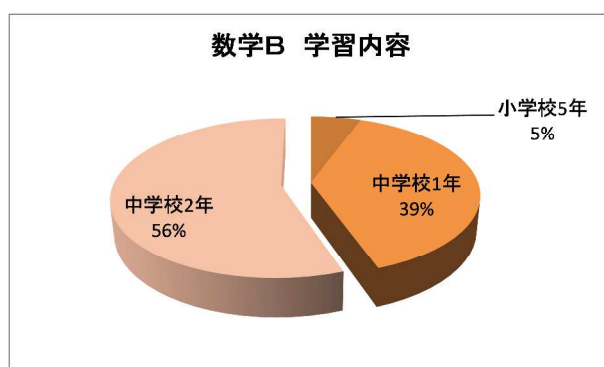
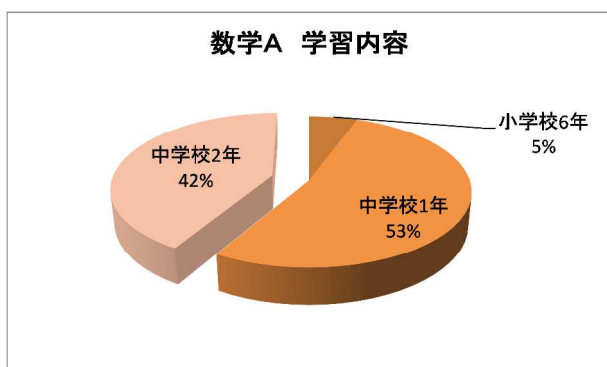
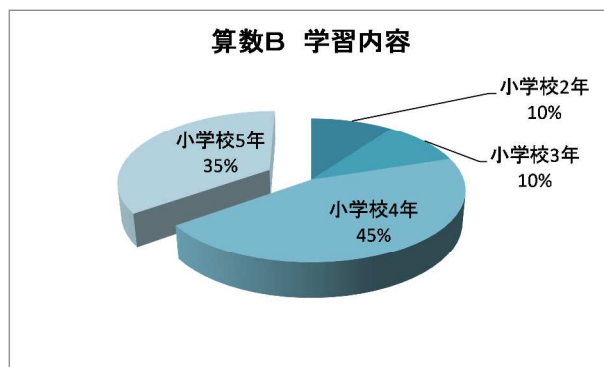
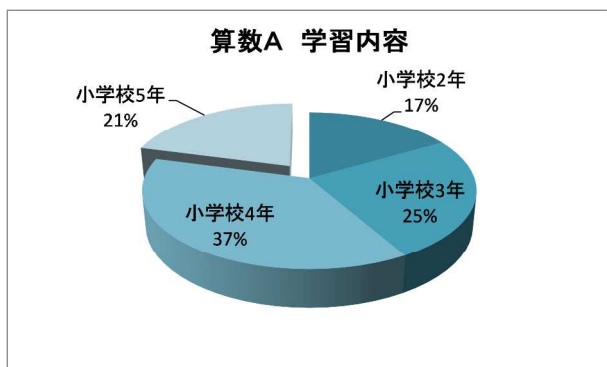
中学校（平成 27 年度モデル校（平成 28 年度の結果））

- ・ 11 の質問項目中、本市平均を上回ったのは、モデル校では半数以上の平均 6 項目、加配のある学校では平均 9.5 項目、加配のない学校では平均 7.5 項目であった。

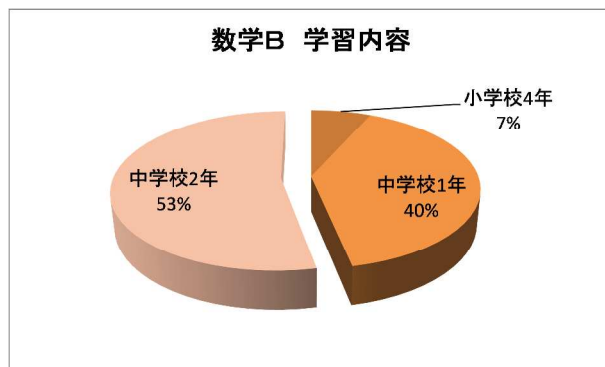
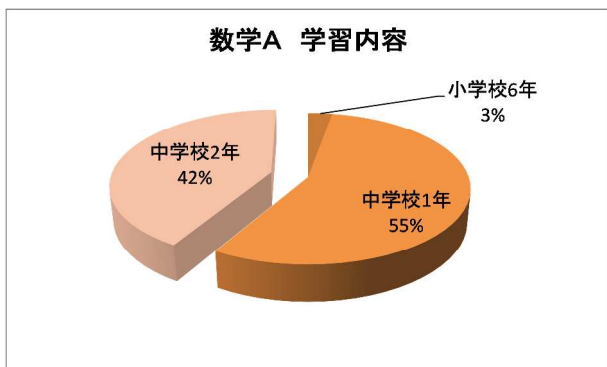
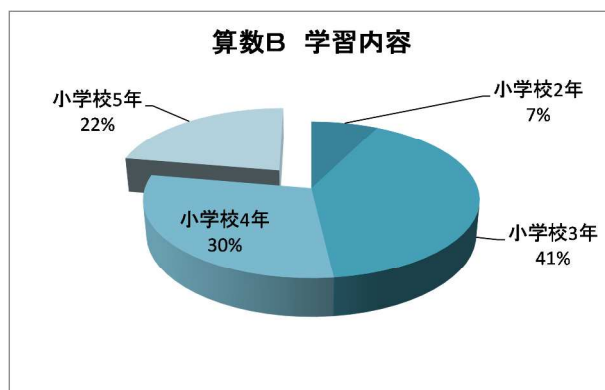
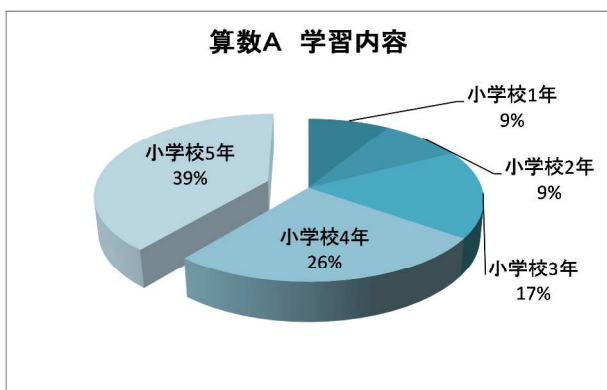
**【分析】**

- ・ 全国学力・学習状況調査におけるモデル校の平均正答率は、市の平均正答率に達していない。N R Tにおけるモデル校の学力偏差値は上昇しているものの、本市平均には達しておらず、本調査についても本市の平均正答率までは達していないと考えられる。
- ・ 全国学力・学習状況調査の問題は、4 年生以下（中学は 1 年生）の学習内容も多く含まれる。少人数指導の良さを生かし、既習内容における一人ひとりのつまずきに対応した個別の指導の工夫が必要である。（p12 参考資料を参照）
- ・ モデル校の全体の平均正答率は高くなく、標準偏差の値も平成 27 年度の中学校モデル校の数学だけが小さかったが、他は、本市平均と大きな差はなかった。学校単位では平均正答率が高い学校や標準偏差の値が本市平均より小さい学校もあるなど、ばらつきが見られる。平均正答率が高いモデル校の授業や指導方法の検証を行い、他校と共有していく必要がある。
- ・ 質問紙調査において、モデル校の小学校で「解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考える」「全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した」の項目で高い数値を示したのは、子ども同士で話し合いや教え合う場面が増えることで、多様な考え方を習得できたからだと考えられる。
- ・ 質問紙調査において、モデル校の中学校の学習意欲が本市平均よりも高い傾向を示したのは、少人数指導において、質問する機会が多くなったり、個別の指導を受けたりできたからだと考えられる。

平成 27 年度参考資料



平成 28 年度参考資料



## 5 熊本県版テストの状況（中学校のみ1月に実施）

### （1）本市平均点との差（平成25年度と平成26年度の数学を比較）

- ・モデル校では、加配のある学校及び加配のない学校に比べ、本市平均点との差で改善が見られた。

|                | 平成25年度 | 平成26年度 | 増減  |
|----------------|--------|--------|-----|
| A 中学校（モデル校）    | 3.4    | 2.4    | 1.0 |
| B 中学校（加配のある学校） | 3.1    | 3.6    | 0.5 |
| C 中学校（加配のない学校） | 2.1    | 3.5    | 1.4 |
| D 中学校（加配のない学校） | 5.0    | 4.2    | 0.8 |

### （2）本市平均点との差（平成26年度と平成27年度の数学を比較）

- ・モデル校では、加配のある学校及び加配のない学校に比べ、本市平均点との差で改善が見られた。

|                | 平成26年度 | 平成27年度 | 増減  |
|----------------|--------|--------|-----|
| A 中学校（モデル校）    | 5.7    | 4.0    | 1.7 |
| B 中学校（モデル校）    | 1.2    | 0.3    | 0.9 |
| C 中学校（加配のある学校） | 1.0    | 0.3    | 1.3 |
| E 中学校（加配のない学校） | 1.0    | 5.4    | 6.4 |
| F 中学校（加配のない学校） | 4.6    | 2.7    | 1.9 |

#### 【分析】

- ・少人数指導により、子どもたちの実態に応じた教材の提示や、より丁寧な個別の指導が行われ、授業中の発言機会の増加したり、分からない問題を教師や友達に質問する態度が養われたりした結果、基礎学力の定着が進み、平均点の上昇につながったと考えられる。
- ・本テストは、当該学年（中学校2年）の学習内容が主となる。教授型の授業から、新たに自力解決を促すような授業を行うことができたことで、子どもたちが当該学年の学習内容に興味をもち、理解が深まったと考えられる。

## 総括

モデル校について、様々なデータを用いながら検証を行ったが、NRTの学力偏差値の上昇及び評価テスト、県版テスト等の結果に効果が見られ、アンケートではプラスの行動変容が見られた。また、モデル校では、加配のある学校及び加配のない学校と比べると、データの数値は概ね良好であった。

また、中学校よりも小学校の方がデータの数値は良好な傾向があったほか、学校間の差が見られることで、モデル校全体としての全国学力・学習状況調査の平均正答率が、加配のある学校及び加配のない学校に比べて低いなどの傾向がある。

今後も、各小中学校の状況や子どもたちの実態に応じた少人数指導の工夫、既習内容の定着度に対応できるような授業作り、子どもたちのつまづきを発見できるような個別指導の充実など、少人数指導の方法について、さらに研究していく必要がある。